

PRESS RELEASE (2024/05/13)

**学生のアイデアや研究を助成し計画実現を支援！  
チャレンジ&クリエイション (C&C) 2024 が始動**

九州大学ロバート・ファン／アントレプレナーシップ・センター(略称 QREC)は、学生のアイデアや研究に最大 50 万円の資金提供し、1 年間かけて推進していく全学プロジェクト「チャレンジ&クリエイション (C&C)」を行っています。28 回目となる 2024 年度のチャレンジ&クリエイションは、2024 年 5 月 18 日(土)に行う審査会を経て、採択者を決定し始動します。

チャレンジ&クリエイションは、QREC の主要プログラムの一つで、「キャンパスから挑戦と創造の風を起こそう」というテーマのもと、九州大学の学生が持つユニークなアイデアや研究プロジェクトの実現を支援するものです。このプログラムは 1997 年にスタートし毎年実施され、九州大学の独自性を示す象徴的な教育プロジェクトとなっています。学生個人またはグループが企画したアイデアや研究計画を審査し、新規性や社会的インパクトなどを基準に採択されたチームには最大 50 万円の資金提供が行われます。約 1 年後には成果報告が行われ、優秀なチームは表彰されます。

QREC は、チャレンジ&クリエイションなどの取り組みを通じて、自立心・向上心・グローバル意識を有し、積極的に新しい価値創造<sup>※</sup>にチャレンジする、世界に羽ばたくリーダー人材の輩出を目指します。



昨年度のプレゼンテーションの様子

※：新しい価値創造とは、人文・社会科学、自然科学などの分野、もしくはそれらの融合分野において、イノベーションを生み出すことを指す。

**■チャレンジ&クリエイションのポイント（一例）**

- ・採択されると、1 件につき上限 50 万円の助成が受けられる
- ・チームメンバーとの打合せや、作業などで QREC 施設(ミーティングスペースや工房)を利用可能
- ・外部審査員 (VC や起業家など) からアドバイスを貰える

**■1 年間の活動の流れ****▼審査会▼**2024 年 5 月 18 日(土) 13:00~  
場所：福岡商工会議所 4 階 407**▼中間発表会▼**2024 年 11 月 2 日(土)  
場所：伊都キャンパス 椎木講堂**▼成果発表会▼**2025 年 2 月  
場所：未定**▼受賞者表彰式▼**2025 年 3 月中旬頃  
場所：伊都キャンパス椎木講堂 特別応接室

【お問い合わせ】九州大学ロバート・ファン／アントレプレナーシップ・センター  
TEL:092-802-6060 FAX:092-802-6065  
Mail: [info@qrec.kyushu-u.ac.jp](mailto:info@qrec.kyushu-u.ac.jp)

## 【資料】

### ■QRECとは

九州大学ロバート・ファン／アントレプレナーシップ・センター(略称 QREC)は、米国にて起業家として大成功をおさめた九州大学の卒業生、ロバート・ファン氏の百周年記念寄付金をきっかけに 2010 年 12 月に設立されました。

2022 年 11 月に岸田総理大臣が、ユニコーン 100 社を創出するスタートアップ育成5か年計画の中で、アントレプレナー教育の強化を図ることも目標として掲げられました。

QREC も以前よりアントレプレナーシップ研究・教育の更なる発展を目指しています。

本センターは、九州大学の全学学生を対象に、先進的かつ体系的なアントレプレナーシップ関連教育を提供することにより、自立心、向上心、グローバル意識を有し、積極的に新しい価値創造\*にチャレンジする、世界に羽ばたくリーダー人材の輩出を目的としています。そして、アジアにおける本格的かつトップクラスのアントレプレナーシップ教育・研究組織を目指しています。

QREC の教育プログラムは、学生が自ら行動を起こす段階までを教育の焦点としており、そのために、科目提供と実践の場提供の 2 つの主要な取り組みを行っています。

### ■審査会

2024 年 5 月 18 日 (土) 13:00～

場所：福岡商工会議所 4 階 407

応募者のプレゼンテーションに対し、外部審査員+QREC 教員が審査を行う。

審査は、i) 独自性 ii) 具体性 iii) インパクトの観点から行われます。

採択されたチームは、最大 50 万円の資金提供を受け、計画実現を目指します。

昨年度の様子：<https://qrec.kyushu-u.ac.jp/news/cc2023adopters/>

### ■中間発表会

2024 年 11 月 2 日 (土)

場所：伊都キャンパス 椎木講堂

現段階での進捗状況を報告し、他の採択学生や教員と課題を共有し、意見やアドバイスを受け、成果発表会に向けて計画実行の修正やさらなる精進を重ねる。

昨年度の様子：[https://qrec.kyushu-u.ac.jp/news/20231104\\_cc/](https://qrec.kyushu-u.ac.jp/news/20231104_cc/)

### ■成果発表会

2025 年 2 月

場所：未定

自分のプロジェクトと向き合い課題を分析してきた、

約 1 年間の成果を発表。

外部審査員+QREC 教員の審査により、受賞チームを決定。

昨年度の様子：

[https://qrec.kyushu-u.ac.jp/news/2023cc\\_presentation-of-results/](https://qrec.kyushu-u.ac.jp/news/2023cc_presentation-of-results/)



### ■受賞者表彰式

2025 年 3 月中旬頃

場所：伊都キャンパス椎木講堂 特別応接室

石橋総長から、各受賞者プロジェクトの代表者に賞状と記念のトロフィーを贈呈。

表彰式後は懇談会を実施。各受賞者よりプロジェクトの概要説明があり、総長・理事から質問や感想をいただく。

昨年度の様子：

[https://qrec.kyushu-u.ac.jp/news/2023\\_ccaward-ceremony/](https://qrec.kyushu-u.ac.jp/news/2023_ccaward-ceremony/)



## ○昨年度受賞者（※学生の所属は、2023 年度時点）

### 【最優秀賞】

#### ・「地球超低軌道衛星の実現に向けたプラズマ推進器の技術開発」

代表：小澤 翼（工学府 航空宇宙工学専攻 修士2年）

#### <プロジェクト概要>

近年、「地球超低軌道」と呼ばれる高度 80km~300km の軌道帯に注目が集まっている。地球超低軌道は地表への近接性から高精度な観測や高速通信に適しているが、希薄な大気が存在するため、その抵抗により衛星が落下してしまうという問題点がある。そこで、この希薄な大気存在を逆手に取った、空気を吸い込んで燃料として使う「空気吸い込み式エンジン」の利用を本プロジェクトでは提案した。プロジェクトメンバーの研究テーマとの親和性や、尖った研究テーマになることが期待できることから、吸い込んだ空気を加熱するエンジンとして「誘導結合プラズマスラスタ」と呼ばれる推進器を具体的なテーマとして選定し、誘導結合プラズマスラスタの実現に向けた要素技術の獲得を本プロジェクトの主たる目的とした。更に、それに続く目的として「システム成立性の検討」及び「学際的なチームの結成」も掲げた。

#### ・「Own Feet Project | 動物用車椅子の開発と啓発活動」

代表：松永 真梨子（人間環境学府 空間システム専攻 修士2年）

#### <プロジェクト概要>

2022 年の犬と猫の飼育数は 1500 万匹を超え、医学の進歩の影響もあり、その半数以上が高齢期と言われる 7 歳以上である。そうした背景の中で動物用車椅子の需要は増えている一方で、車椅子の認知度が低いために存在を知った時にはもう手遅れであったり、車椅子が高価であることやオーダーメイド工房が近くにないことで購入を踏みとどまったり、ネットで安く既製品を買ってもうまく調整して乗りこなすことが出来なかったり、と動物用車椅子はあまり普及していない。

本プロジェクトは「下半身が不自由な子犬の保護犬こいみちゃん」への手作り車椅子の制作をきっかけに 2020 年から始まっており、2022 年度の QREC C&C でも『ペット各個体に最適化した車椅子を安価かつ容易に作成できるシステム「Joint with」』優秀賞をいただいている。2023 年度は車椅子を製作することに加えて、「車椅子業界を根底から変えたい」という想いから、新たに①DIY 車いすの開発、②全国の工房との連携方法の模索、③飼い主さんへの情報発信を行っている。特に②に関しては広島県にある工房と密に連絡を取り、新接合部の開発や半自動設計システムの提供を行っている。

### 【優秀賞】

#### ・「BIONATURE（ビオナチュア）」

代表：権藤 菜津姫（経済学府 産業マネジメント専攻 修士2年）

#### <プロジェクト概要>

オーガニック粉ミルクは 90 年前にスイスで開発されて以降、現在欧米はもちろんアジアの多くの国で発売されているが日本にはない。そこで日本初オーガニック粉ミルクの開発を目指したが、60 年以上新規参入のない特殊な業界で参入障壁が非常に高く断念せざるを得ない結果となった。粉ミルクの開発と並行して行った乳幼児を持つ母親 413 名を対象とした定量調査の結果、母親たちは子供にナチュラルで安心安全なイメージがあるもの（国産原料、無添加、オーガニック等）を与えたいと考える傾向にあることがわかった。

現在日本で発売されているベビーソープは人工界面活性剤である洗剤がほとんどであり、香料や着色料をはじめ様々な添加物が入っている。そこで今回、ヒトと環境にやさしいベビーソープの開発に着手した。天然界面活性剤である石鹼に着目し、その中でも特に天然の保湿成分であるグリセリンが多く含まれ、且つ油脂と水酸化ナトリウム、水のみシンプルな材料で製作が可能な『コールドプロセス石鹼』を採用し、敏感肌に科学的根拠のある油脂のみを採用し赤ちゃんから大人まで安心して使用できる石鹼を開発した。